

令和3年度鳥取市総合教育会議（第1回）会議録

1 日 時 令和4年1月21日（金） 13時30分 から

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 7階 第2委員会室

3 出席者 〔構成員〕

市長：深澤 義彦

教育長：尾室 高志

教育長職務代理者：藤井 喜臣

教育委員：山脇 彰子

教育委員：前田 哲雄

教育委員：畑 千鶴乃

〔市長部局〕

副市長：羽場 恭一

総務部長：浅井 俊彦

総務部次長兼総務課長：富田 恵子

〔教育委員会事務局〕

教育委員会副教育長：岸本 吉弘

教育委員会次長兼教育総務課長：横尾 賢二

教育委員会次長兼学校教育課長：安本 雅紀

教育委員会文化財課長：佐々木 敏彦

教育委員会生涯学習・スポーツ課長：中原 登

教育委員会学校保健給食課長：山根 ちはる

教育委員会中央図書館長：長本 次郎

教育委員会教育センター所長：安田 直人

教育委員会さじアストロパーク所長：宮本 敦

教育委員会学校教育課参事：須崎 ひとみ

教育委員会教育総務課長補佐：入江 卓司

〔傍聴者〕 3名

4 会議次第

- (1) 鳥取市GIGAスクール構想について
- (2) 放課後児童クラブの現状と取組について
- (3) 学校適正規模・適正配置の進捗について

5 会議概要

1 開 会 13時30分

開会（教育委員会副教育長）

2 市長あいさつ

本日は大変お忙しい中、今年度第1回となります総合教育会議に議出席いただき誠にありがとうございます。

教育委員の皆さまにおかれましては、日ごろより本市の教育の充実・発展に大変ご尽力を賜っておりまして、改めまして感謝を申し上げる次第でございます。ご案内のように新型コロナウイルス感染症が大変な猛威を振るっておりまして、第5波と呼ばれる昨年の夏の状況は一旦収束するかに見えたましたが、年明け辺りから新しい変異株のオミクロン株が猛威を振るっており、鳥取市保健所管内でも昨年の10月29日から年明けの1月2日までの66日間、陽性例、感染例が0の状態が続いていましたが、1月3日に陽性例が2例出まして、昨日までに210名を超える陽性者が確認されており、この短い期間にこのような陽性例・感染例が発生しているところです。中でも複数のクラスターが発生しておりますし、小中学校の児童生徒の皆さん、教職員の皆さんにもそれぞれ39名、6名といった感染例・陽性例が発生しており、延べ11校が休校、今日のところは中ノ郷小学校、久松小学校、修立小学校、福部未来学園の4校が休業といった状況を余儀なくされているところです。現在、鳥取市保健所、また、健康子ども部や危機管理部を中心に、全庁一丸となってこの事態に対応しているところでございます。大変困難な状況にありますけれども、必ず封じ込めをしまして、また以前のようにいろいろな活動ができるようにと、そのようなことに向かって今取り組んでいるところであります。

また、全国的には1月9日に3県でまん延防止等重点措置が発令となっておりますが、今日からはまた13都県で発令、10道府県から要請が行われているところであります。合計しますと、47都道府県の半分強がそういった状況にあるということで、国を挙げて大変な状況にあるわけですが、まだまだ鳥取市保健所管内では感染経路を追える状況にあると考えておりますので、積極的な疫学調査等でPCR検査を受検していただき、感染がこれ以上広がらないように努めていきたいと思っております。

本日は議題が3件ございます。「鳥取市GIGAスクール構想について」、「放課後児童クラブの現状と取組について」、「学校適正規模・適正配置の進捗について」ということでありますので、委員の皆様におかれましては、しっかりとご審議を賜りたいと思います。また、いろいろとご提案等をいただければと思いますのでよろしく願いいたします。

3 議題

(1) 鳥取市G I G Aスクール構想について

学校教育課長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(山脇委員)

将来を担う子どもたちが楽しんで勉強するというのは、とてもいいことだと思います。1人1台ですので、端末を使いこなせるようになれば興味もわきますし、いろいろなことを調べたいという気持ちが出てきて、主体的に学習できると思いますし、深掘りできるというのもよいと思います。ただし、魅力ある授業というものが、先生や学校が異なっても平等に受けられるかということが今後の課題だと思います。子どもたちの吸収力というのはとても強いと思いますので、先生方の研修を充実させ、このオンデマンドやオンラインの良さを発揮しながら教員の方々が成長して使いこなせるようになることを願うばかりです。

(学校教育課長)

この新しい時代になりまして、学校現場に様々なニーズが求められております。英語教育、それからこのG I G Aスクール構想も含めてでございますが、子どもたちが平等に教育を受けるという部分を支えるということで、教職員研修も随時丁寧に行っていきたいと思っております。

(藤井委員)

表紙の写真に子どもたちが笑顔で写っているように、学校訪問でタブレットを使用する授業を見ますと、子どもたちがとても授業に惹きつけられていました。上手く使って力をつけて欲しいなと思います。それから、先ほど山脇委員もおっしゃられたように授業をする先生について、年配の先生は機械を使うことに抵抗があるかもしれないと思うのですが、指導する力というのはすごく持っておられると思いますので、機械を使う能力と指導する先生の能力とを上手く結びつけるような研修、例えば2人1組でできるような研修などを考えてもよいのではないかと思います。機械を使う研修ばかりをしても仕方がないので、能力をその中で生かせるような伝え方をしていただくと、年配の先生も入りやすいのではないかなと思います。

また、防災教育にも有効ではないかと考えていまして、それぞれの学校でハザードマップと自分の住む地域を結び付けて教えることは有効かなと思います。

あわせて、もし深澤市長がまだ子どもたちのタブレットを使った授業を見ておられないようでしたら、授業の様子を見ていただくと子どもたちも喜ぶと思います。本当にすごく子どもが喜んで、また、生き生きと勉強しているなということが伝わってくると思います。

(深澤市長)

ありがとうございます。3点ご意見、ご提言をいただきましたけれども、3点目は私たちに現場に行って状況、様子を見てきてはどうかということで、できますれば、子どもたちがどのようにこのG I G Aスクール構想に基づいて取り組んでいる

か一度状況を見させていただければと思います。最初の2点につきましては先生方の研修について、やはり今まで培ってこられた様々な経験や、ICTの技術というものの調和ということで、2人1組での研修もよいのではないかとということと、防災教育にも有効ではないかとということでしたが、事務局の方で何かありますでしょうか。

(学校教育課長)

今、GIGAスクール構想ということで、デジタルコンテンツを使った学習に大きく議題が振れているように思いますが、教育現場というのは今までのアナログで培ってきた部分も大きく価値のある部分であると思います。私たちはハイブリット型の教育と呼んでいますが、今後は、ノウハウを身に付けた中でデジタルの部分での迫り方と、アナログの部分での迫り方を融合する教育を考えていく必要があるのではないかと考えております。

また、こういったデジタルコンテンツを活用しますと、現場の様子や情報などを即時に目の当たりにすることができ、身近な教材として捉えて学習が深まるということがよくありますので、防災教育等にも有効に活用していきたいなと思っております。

(山脇委員)

支援員の方をまとめられるのは基本的には4校に1人などというように言われていますが、鳥取市の場合は各学校ですべてできているのですか。

(学校教育課長)

現在はこのGIGAスクール構想を進めるために各学校に情報化推進リーダーという専門の仕事をする教員を通常の業務をしながら担っていただいておりますが、この者が、研修等に参加し、学校に拡げていくという制度をとっておりますが、GIGAスクール構想を進めていく中で、専門的な機器に関わる部分やより情報教育に長けた部分での支援というのは必要であると思っております。来年度については学校に出向いて行って支援できるような部署や人員を確保していかなければいけないなと思っております。

(前田委員)

私も今、大学でオンライン授業を試みているところですが、私のようにやったことのない人間が改めてそういったデジタルコンテンツを駆使して授業をしようと思うと、どうしても授業をしている私自身の意識が、ICT機器をどうやって使おうかということにいつてしまったり、途中で止まってしまうといったトラブルの対応に追われてしまいます。そういったところに時間やエネルギーを使っている自分をいつも感じていまして、よく言われますけれども、そういったiPadなどを使うことが目的化しているような気がして、本来のそれぞれの科目の目的や授業の趣旨を見失いそうになっているような感じがします。学校現場でも似たような状況があるのではないかなと思っております。例えば、今日見せていただいた資料にもありましたが、本市の教育は、魅力と徹底による学力の向上のことと、自己有用感の育成の

ことと2本立てで進んでいるわけですが、どうしてもGIGAスクール構想ということになると、学力や教科指導の面が中心になりがちだろうという中で、今はまだ機器の使い方を学ぶといったところにあると思いますので、できるだけ早く、自己有用感や自治力の育成という方面についても、このGIGAスクール構想を通して力がつくような充実策が見いだせていければよいと思います。聞かせていただいている感想です。

(2) 放課後児童クラブの現状と取組について

副教育長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(藤井委員)

ひとり親家庭や共働き家庭が増えてきているのを感じていまして、6年生まで希望して受け入れることができるということであれば、きっとこれからも入所する子どもが増えてくると思います。いよいよ普通教室の活用というのも本当に考えていかなければいけないと思います。通常教室を使っている子ども以外の子どもが放課後児童クラブでその教室を使うということになると、置いて帰る教材などもあると思いますので、ロッカー整備をする必要があるかもしれないと思いました。

また、これまで保護者が運営してくださっていたのは非常にありがたかったですし、今でもやっておられるところは相変わらずありがたいことなのですが、先ほど言われたように、いろいろな手続きの関係や、苦情があった場合に組織での対応ができませんので、そういった状況の中で、企業型保育も可能性があるのかもしれないと思いました。企業型保育についてはいろいろな意見がありますし、ある程度適格性をチェックしなければいけません。企業型の放課後児童クラブというのもよいところがあれば取り入れてもよいのかなと思います。

また、教育関係の予算というのは、仕事によって、例えばスクールカウンセラーの予算、非常勤講師、学習支援員の予算というように切り分けて、その時間の勤務に適した人を探すのですよね。働く側としてトータルで仕事をしたいということになった時に、そういった人が実際に出てくるかということは分かりませんが、例えば昼間学校で学習支援員をしている人が放課後児童クラブの支援員として勤務するといった働き方についても、いつかは考えなければいけないのかなと思います。そうなった場合に、予算が切り分けられていると一続きの勤務にできませんので、うまく融合できないかなという思いはしております。

(学校教育課長)

まず、岩倉小学校でモデル実証しようとしているイメージなのですが、子どもたちが終礼をした後、自分の机の中の引き出しを個別のロッカーに収納します。そこにカーテンを設置して、カーテンを閉め、児童クラブの子どもたちが入ってきた際に触れないような形にして帰宅するという予定です。机を消毒し、その後放課後児

児童クラブの子どもたちが入ってきて生活をします。その際に教員が教室で業務ができないということや、教卓の周りの教員に関わるものに触れてはいけないということもありますので、そこにはパーティションで区切りをして児童クラブをしながらも教員がそのスペースで仕事ができるという環境を整えようとしているところです。普通教室と児童クラブを上手く連動させながら進めていきたいと思っております。しかしながら、課題等も生じると思いますので、課題等も集約しながら次の方向性に繋げていきたいと思っております。

また、企業の方がかなり付加価値をつけながら、例えば学習塾的なものをつけながら、子どもたちを放課後児童クラブとして受け入れたいという声は聞いております。家庭的な背景によって平等に受けられるかというところになってくると差が生じるかもしれないのですが、受け皿を増やすという意味でいきますと、そういった受け皿を整えていただくというのはとてもありがたいことだと思っております。

それから、3つ目の同じ者が引き続き学校現場で働くことが出来るというのは、新しい働き方のモデルになるなどと思っておりますので、そういった事態が生じてきた際には支援をしていきたいと思っております。

(藤井委員)

選択の問題ですけれども、例えば米子の小学校では、1つの学校の中でも放課後児童クラブのようなものがいくつかに分かれていました。自分の学校に通う子どもたちを自分の学校で見なければいけないというわけではないかもしれないので、そういった工夫が出来たらと思います。現在は地域の子どもはその地域の児童クラブに行くということが多いですが、これからはもしかするといろいろな場所の児童クラブに行くということもあるのかもしれないと思いました。

(学校教育課長)

1つの児童クラブで複数の学校の子どもたちを受け入れているケースというのは現在もございます。特に大きいのは、附属小学校の子どもたちを受け入れているクラブです。しかしながら、こういったところの児童クラブの苦労というのは、何か起きた際に複数の学校に連絡を取らなければならず、日々の連携がかなり難しいということです。その辺りも支援員・指導員・アドバイザーを派遣してノウハウを伝えているような現状でございます。

(畑委員)

1つ目の議題のGIGAスクール構想とも重ね合わせて、放課後児童クラブについて、学校活用型を本格的に進めていくという上では、学校という場ですので、放課後児童クラブも含めてトータルに校内LANとそれを使用できる体制をつくっていただけたらと思います。放課後児童クラブの間も子どもたちが端末を使ったり様々な活動ができるような取組をぜひ考えていただければと思います。藤井委員もおっしゃっていたように、私も計画訪問に行かせていただいて、子どもたちが生き生きと端末を使いながら授業をしている様子が伺えました。単純に楽しいということではなく、知的好奇心がそそられる楽しさで、子どもたちの手でその授業なり時間な

りが切りひらかれようとしている姿がありました。その姿を見て、例えば年配の先生方もそれに助けられると言いますか、学ぶ場面もたくさんあると思いますし、子どもとともに切りひらかようとしている、まさに展開期にある教育実践なのだという事を身に染みて感じたところです。ぜひ深澤市長も市長部局の方々も子どもの生き生きとした姿を、このコロナウイルス感染が落ち着きましたら見ていただけたらと思います。

また、直接的な今すぐの解決というわけではないのですが、今日のお話の中で児童クラブの課題と取組にあげられていたことは児童クラブの積年の課題です。今に始まったことではなく、構造的に生み出されている課題といますか、例えば職員の方の専門性のことにつきましても、やはり基盤に職員の方の賃金を含めた労働条件の改善が切実に求められてきたところでした。安心して働ける労働条件があった上で、職員の方々の専門性、資質向上に向けての研修なり勉強する機会なりが検討されなければならないというのはこれまでもずっと課題としてきたところです。ですので、具体的にこのようにということは私もこの場では申し上げることが出来ませんが、これは教育員会だけでの問題ではなく、学齢期の放課後の子どもたちの豊かな時間をどのようにつくっていくのかという観点で、児童クラブもそうですし、こども食堂、放課後等デイサービスなどに関わっておられる部局もそうですし、庁内でそういった放課後の子どもたちのサービスを担っておられる方々に集まっていたいて、本当に必要な支援体制というものをぜひ公的な責任として議論を進めていただきたいなと思います。教育委員を勤めさせていただいて、改めて教育委員会だけの、放課後児童クラブ担当課だけの課題ではないということを強く感じているところですし、教育委員の立場としてもそれを深澤市長や市長部局の皆さんにご理解いただけたらと思います。

最後になりますが、学校活用型ということで、これもまず、現段階での解決の方法としてこれはとても大切な案だと思っております。しかしながら先程の話にも戻りますが、本当に学齢期の子どもたちの放課後に豊かな暮らしを創造するということを考えたときに、学校施設だけが担わなければならない課題なのかというところにやはりたどり着きます。私が研究、調査してきた中では、2015年に調査した際にカナダのオンタリオ州が学校活用型を徹底的に進めており、学校の時間が終わったら児童クラブの用品を入れてスタッフが入れ替るかたちで実施しておられました。しかしながら、この取り組みでは子どもたちの生活の認識の流れが学校からあまり切り離されておらず、学校の延長線上になるので、学校でそのまま過ごしたいと願う子もいれば、放課後からは帰りの時間なので学校ではない空間で他の友達と遊びたい子もいます。子どもの中では学校が終わったところで一度リセットし、放課後はまた学校とは違う自分の暮らし方があって、そのあと家庭があるという、そういった子どもなりの暮らし方という観点で考えていく必要があるだろうなというように思います。少し長い目で考えると、乳幼児保育からそのままあがって学齢期の保育率が高まっていくことは避けられないことだと思いますし、これからも入級率は

高まっていくと思いますので、教育委員会だけの話に決してとどめず、そろそろ抜本的に放課後の暮らし方について、いろいろな部局の方が集まって検討するというのを始めていただきたいと思います。

(学校教育課長)

国の事業で放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業を導入しているという説明をさせていただきました。支援員の方の処遇改善というのは喫緊の課題であると思っております。この事業は処遇の改善への1つの施策として行っているものですが、引き続き検討していく必要があるかなと思っております。

また、放課後の子どもたちの暮らし方についてですが、実際児童クラブの子どもたちは、校門から一度出るケースが多く、放課後児童クラブに迎える時には「ただいま」と言って入ってきます。ですので、一度そこで区切りをつけて放課後児童クラブの生活を始めるというのはまさに畑委員がおっしゃる通りだと思います。その辺りも含めてどのように子どもたちのリセットを図っていくか、支援を図っていくかということを、この普通教室の利用の部分についても検討していきたいと思えます。

(深澤市長)

最初のタブレットの利活用の部分についてはいかがですか。

(学校教育課長)

はい。タブレットにつきましては、現在は、子どもたちが毎日持ち帰るといところまで至っておりませんが、タブレットを日常的に持ち帰るようになってきましたら、放課後児童クラブの中でも使用可能な状態になってくるのではないかと思います。LAN環境の整備などですが、現在のところ普通教室のLAN環境の整備は整っており、次に整備を考えているのは特別教室、体育館を視野に入れております。畑委員がおっしゃるような放課後児童クラブのLAN環境の整備も視野に入れながら長期的に考えていかなければならないと思っております。

(深澤市長)

ありがとうございます。それから、市長部局にも理解をというお話もありました。この放課後児童クラブにつきましては、以前は市長部局で担当させていただいていた時代もあります。福祉、教育の両方にまたがる課題でありますので、どちらが所管するのがよいのかということもあり、現在は教育委員会の方でということになっておりますが、この事業はやはり、教育委員会だけではなくて市長部局も一緒になって取り組む課題の一つではないかと考えております。

また、労働条件の改善等につきましても、先ほど事務局より説明がありましたようにいろいろな事業がありますので、そういったものを活用して少しでも支援員の皆さんの処遇を改善していくということは、これからも進めていく必要があろうかと思えます。

それから、こども食堂やデイサービス等、子どもたちが学校を終えた後、豊かな時間をもてるようにということで、部局を超えて取り組んでいくようにというよう

なお話があったと思います。鳥取市は来年度から重層的支援体制を構築していくということで、様々な制度がそれぞれにありますけれども、その狭間にあるような場合、重なる場合、連携を必要とする場合、それが部局ごとに連携が十分でなく取り組まれているような状況を少しでも改善していこうということで、これは部局横断的にそういった体制を構築していくということの本格的に始めていこうとしておりますので、こういった教育委員会の取り組みも、全庁的な視点で今一度しっかりと共通認識をして取り組んでいきたいと思っております。そういったスタートの年になるようにというように今考えているところであります。いずれにしましても、市長部局と教育委員会ですっかり連携を図って取り組んで参りたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

(3) 学校適正規模・適正配置の進捗について

副教育長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(藤井委員)

今回のとりまとめがこれまでで一番よくまとめられていたと思います。今後はおそらくこれを基本に進めていかれるのだと思っておりますし、進め方はやはり皆さんの意見を聞きながら結論が出てくれればよいと思います。説明資料の2ページにありますように最終的には教育委員会で決定することとなっておりますが、できれば意見がまとまった場合は、地域からの要望を尊重して、できるだけ要望に沿って決定していただきたいと思っております。新設校となればスクールバスなど新しい要素も出てくると思います。常時教育委員会も市長部局と連携をとりながら進めていくと思いますが、新設校をとった際には予算等よろしくお願ひしたいと思っております。

それから、気高地域のお話が具体的に出ていましたが、この方針が出てから初めての例になると思いますので、ぜひ実現させていっていただきたいなと思っております。どこが候補になるかというのは私もわかりませんが、場所によっては通学の際に宝木浜村間で車が使える場合もあるのかなと思います。この気高地域の意見がまとまり、早く実現すれば他の地域も加速していくのではないかなと思います。

また、千代川以西や旧市街地が気になります。いろいろなご意見がありますが、どこかで結論を出さなければいけません。20年というのはとても長いので、どこかの段階で、場合によっては話がまとまらず決まらないということがあった場合に、学校選択制というのも部分的には考えてみてもいいかもしれないと思います。特に、千代川以西は近いところではなく遠くの学校に通っているということに少し違和感がありまして、それを望まれる方は遠くの学校へ通われてもいいと思いますが、そうでなければ近くの学校に通うという選択もあるのかなと以前から考えていますので、まずは話がまとまるのが一番良いのですが、もし決まらなければ、どこかの段階で、少し乱暴かもしれませんが、保護者の方にお任せするというのもあるのかなと思います。これは私の個人的な意見です。

(深澤市長)

ありがとうございます。この件につきましては、随時教育委員会から報告をしていただいております。連携して取り組んでいきたいと思っております。

(教育総務課長)

まず、新設校といった点で予算なりをというご意見だったと思います。市で公共施設を建てる場合、公共施設再配置といったような市の方針もございます。教育委員会としては地元の意見を最大限尊重するということでございますので、市の方針との整合性を踏まえ、どういった形であれば地元のご意見・ご要望を最大限活かしていけるのかということを考えてうえで進めてまいりたいと考えております。

気高地域につきましては、今まさに進捗中で、先日新聞報道にも載っていましたが、新設校を浜村駅周辺に建ててはどうかという意見が出ております。詳しい場所までは出てこないのではないかなと思っております。新設ということであれば、今後気高地域でどういったまちづくりをしていくのかが重要になってくると思いますので、そういった点を踏まえて今後も議論を重ねたうえで、どういった学校、施設にしていくのかということを考えてご要望に応じていきたいと思っております。

また、課題となっている千代川以西や旧市街地について、どこかで結論を出さなければいけないのではないかとこのところでございますが、まず、この方針自体をご承知でない方もかなりおられますので、先ほど少しお話をしましたけれども、皆さんに自分の地域の学校をどのようにしていきたいのかということを考える場をまず作っていただくことが必要であると思っております。そういった場で例えば、自分の学校を存続させるといったご意見も当然出てくると思いますので、まずは地域で考えていただくということを尊重したうえで、今後どうしていくのかについてはそれを踏まえて考えてまいりたいと思っております。

(山脇委員)

藤井委員がおっしゃるように、20年後というのがなかなか遠すぎて、今0歳で生まれてきた子どもたちもその頃には成人してしまうのですよね。あまりにも遠い話になって、想像するのが難しいと思います。PTAの会長も1年で交代する時代ですし、せめて10年にするなど、期間を区切って目標を立てるような計画に見直していくのがいいのではないかと思います。

(教育総務課長)

たしかに20年後というのは大変長い話で、逆に20年もこの方針がずっと続けられるかと言われるとなかなか難しい面もあるのかなと思っております。当然人口減だけでなく社会情勢も変化していく中で見直していく必要があると思っております。しかしながら、人口が減り子どもの数が減るということはほとんど間違いのないことですので、まずは市民の皆様にもそういった点を十分に理解していただいたうえで、それぞれ自分の校区や自分の地域をどうしていくのかということをもまずは考えていただくきっかけを作ることと、それと併せまして、進捗を見ながら、市としましてもこれから先の舵取りといいますか、どのようにスケジュールを組んでいくのかという

ことも考えてまいりたいと思います。

(前田委員)

千代川以西の話がよく話題になるのですが、千代川以西の場合は、新設校はどうだろうかという提案が出てきており、その中で先進的な取り組みをするかどうか、複合的な施設にするであるというように、教育委員会の中だけでなく福祉の面も混ざり合った魅力的なものが一応は提示されていますけれども、どうすれば地域の人々が話し合いの場に参加してくれるかと考えたときに、このような施設を考えていますというだけでなく、その他にもより具体的にこんなことを考えている、こんなものを取り入れる可能性があるといったことが示すことができれば、それをいい話だなと思ってくださる方も増えるのではないかなと思います。そういった魅力をアピールしていくしかないのではないかなと思います。仮に最終的に学校選択制になるとすれば、他の地域の保護者から、それなら私たちの校区もという意見も出てくると思いますのでその点も考えておかなければいけないと思います。

また、河原町などを統合していくときに、特に小学校の統合をする場合には、私の経験から言いましても、学校が一番奥にあるところと、小規模になっていても学校が通り道にあるところとで自分の町、村がなくなるという危機感が違うと思います。そういったときに一律に統廃合をして、その後の手立ては何もないというのは少し苦しいなと思います。やはり一番奥の地域の学校を統廃合する際に、こういった手立てを考えているということを示すことが出来れば、より地域に寄り添った統廃合の進め方になるのかなと感じています。

(教育総務課長)

千代川以西ということで、具体的に魅力を提示することができればというお話だったと思います。新設ということで、今度、気高の方から要望があがってくる予定でございますが、そういった中で施設の複合化といったようなことが必要になってくると思います。例えば気高の事例を参考にして、周りの地域にもこういった事例があるということで先進的な事例をお示しすることができれば、また地域の方も話し合いの場に参加してくださるのではないかなと思っております。いずれにしても、気高の事例もですが、地域のまちづくりをどうしていくのかということにも関わってきますので、そういった点も踏まえて皆様に広く情報を提示し参考にしていただくようなかたちにしてまいりたいと思っております。

また、谷の奥にあるような地域への対応ということですが、地域で議論していただくにあたりまして、小規模校を必ず統合する方向で教育委員会として話を進めているわけではなく、小規模校では例えば、小規模転入制度というものがあり、地域の方で統合せずに進めるということであれば意見を尊重するということでもあります。ただし、統合を考えられた場合には対策を考えていく必要があると思います。それにつきましては、教育委員会だけではどういった対策ができるのか、地域振興でどういった取り組みができるのかということを示すのは難しいと思いますので、その点は市長部局とも連携しまして地域振興を図ってまいりたいと思います。

(畑委員)

説明資料の5ページにPTAの役割としてのご説明がありました。計画訪問で学校に行かせていただいたときに感じましたが、残念ながら、私自身はなかなか今の親御さんの気持ちを知る機会がありません。私自身は確かに鳥取市内の義務教育学校で子どもがお世話になってきましたけれども、卒業してからずいぶん経ちますので、今の親御さんがどのように子育てを想って、わが子を学校に通わせ、これから学校がどうなっていくように願っておられるのか知る機会がありません。先ほどから地域という言葉が飛び交っていて、その中におそらく核として親御さんの存在があるのだろうと思うのですが、そこに子どもを通わせている親御さん、PTAの方の声がきちんと尊重されるということ、それが完全に反映されなくても、しっかり聞いてもらった、くみ取ってもらったという実感を伴うような議論の場になったらよいなと願っております。

それから、これは教育委員会の皆様へのお願いですけれども、繰り返しになりますが、なかなか親御さんの思い、特にこの学校を考えるうえでの親御さんの思いを知る機会がないように思います。それがいい中で、地域やコミュニティとは誰を指すのだろうか、特にその中の当事者の核になるのは誰だろうかと親経験者として感じます。その時に親が何を願い、どのように意見がくみ取られ、どのように反映されていっただろうか、あるいはそれを実感されただろうかということがふと頭によぎります。ですので、当事者は決して親だけでなく、コミュニティは様々なひとが集まっての共同体だというのはもちろんそうですが、今子どもを育てている親御さんたちの声が反映されるという道筋を、学校の在り方を考える中で1つ筋としておいていただきたいなと思いました。

(教育総務課長)

ご意見ありがとうございます。PTAのご意見をくみ上げるということで、気高の事例を先ほどからお話させていただいておりますが、地域ということもあがっておりますが、地域の中には当然PTAの方も入っております。ただ、入っているというだけではなく、PTAの方からも活発にご意見をいただいております。気高の統合準備委員会ですと、直接学校の校長先生方や地区の会長さん、PTAの代表の方が各校からそれぞれ出てきていただいたうえで議論をさせていただいております。例えばその中でPTAからのご意見として、交通事情に関する事、ここを通ると危ないということなど、PTAならではのご意見をいただいたうえで反映させていただいております。また今後、このように学校の在り方を考える場合に、当然PTAのご意見も十分くみ上げていく必要があるということも教育委員会でも考えております。

4 その他

(前田委員)

先ほどの適正規模・適正配置の話だけでなく、児童クラブの話にもつながるので

すが、地域の教育力というのが最近はあまり話題になりませんが、学校現場では今、働き方改革などいろいろ言われる中で、地域で担っていたものを学校教育で補っていかねばいけない現状が強くなってきていると思います。本来は地域の中で学年関係なく混ざって遊ぶ中で学んできたものが、地域に期待できなくなってきたためにそれを学校の中で行わなければならない、仲良し班やタテ割り活動を取り入れていかねばならない現状があります。学校教育の中の大切な柱の1つではありますが、やはりそれが学校の多忙間に繋がってしまっているように感じます。地域の中での教育力を取り戻していくような取組を少しずつでも考えていただきたいと思います。先ほどの児童クラブの話に関わりますが、児童クラブはすべて学校でというのではなく、地域の中で何か児童クラブに関わるようなものが少しずつでも入れていただけるなどということを少し考えていただけるとよいかと思います。高齢化の進む社会で地域の教育力が戻ることは難しいと思いますが、それぞれの町、集落で遊んでその地の水を飲み土や泥で遊んでという体験を年齢関係なく一緒にやっていけるような場というのが、今後全く期待できなくなってしまう中で子どもたちが育って行って、それで地域や鳥取を愛してほしいと言っても、そのような気持ちが持ちづらいだろうと思います。それを児童クラブですべて背負うということも無理だと思いますし、なんとか地域の中で少しでもそういった機会があれば、地域の良さを感じながら成長してくれる1つの場ができるのではないかなと思っております。これからの子どもたちのためには鳥取市の教育方針からいっても大事なことはないかなと思います。

(岸本副教育長)

前田委員がおっしゃるように、昔は地域で学年関係なく遊び、その中で仲間を培ってその中で育成をしてきたわけですが、昨今、子どもの数が減ったこともあり、地域に帰っても群れて遊ぶことができない、また、保護者が働いており放課後児童クラブで放課後の時間を過ごすという子どもも増えております。なかなか何もしない中で、地域でみんなが横に繋がるということが難しい時代になってきたなと感じておりますが、その中でも先ほど言われました放課後児童クラブの在り方もそうですが、公民館事業でも子どもたちを集めようと取り組んでおられるところもあります。まちづくりの中で、様々に子どもたちを入れ込むようなことを考えたような行事を考えておられるというところもございますので、今後は前田委員がおっしゃるように、教育委員会、学校だけでなく、先ほど市長も言われましたけれども、重層的な取り組みということ進めていくことになると思いますが、その中で地域の中で子どもたちが過ごせるような場所づくりということも進めていきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

5 閉会

(教育委員会副教育長)

ご協議いただきありがとうございました。本日の会議につきましては、後日議事録を作成し、鳥取市の公式ホームページに掲示いたしますのでよろしくお願い致します。それでは、これもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。皆さま、どうも、ありがとうございました。

閉会 15時10分